



どうとくだより

富陽小学校

2026.1.29



今回のどうとくだよりは、4年生の実践を紹介します。

教材名は、「心のブレーキ」です。主人公が周囲の状況に流されて、してはいけないと分かっているのに、危険な行動をする様子が描かれていて、児童には身近な内容です。自転車で坂道をスピードを出して下ることは危険だと分かっているのに、つい友達との競争が楽しくてやってしまった「ぼく」と、同じように危険な運転をする周囲の人を重ね合わせて考える過程で、してよいこととしてはいけないことを正しく判断するよさやその意義について考えました。また、自分の欲求を優先しては正しい判断をすることが難しくなることから、「周りの人を大切にすること」や「自分の役割を果たすこと」、「生命を大切にすること」が正しい判断につながるということについても考えることができました。

教材名『心のブレーキ』

【あらすじと学習内容】

近くの公園までの下り坂を自転車でかなりのスピードを出して下る「ぼく」が、おばあさんとぶつかりそうになり、自分のしたことを見つめ直すお話です。「ぼく」は、坂を下る人達の姿から自分のしたことを反省し、自分の楽しさを優先するのではなく、自分で正しいことを判断し、実行しなければならないことに気がきます。その姿から、周りの人のことを考え、正しいことを自分で判断することの大切さを学ぶことができる教材です。

関連性のある内容項目として、ルールを守ることで自分だけでなく周りの人も気持ちよく生活できるといった、規則を守ることの価値についても考えることができます。

【授業のねらい】

自分の楽しさだけでなく、周りの人のことを考えて、自分が正しいと判断したことを自信をもって行おうとする心情を育てる。



学習後の振り返り

最初はダメということは分かっているけれど、ついやってしまうことがありました。そういうときは、「もしもこうなったら」という想像をしてみるとダメということが分かるので、これからは想像してから行動したいと思いました。

ダメだと分かっているけどやりたくなかった時に、一回考えて行動したらいいと思いました。友達にさそわれてもすぐに答えずに一回考えてから「やめておく」と伝えます。他にもその行動をしたら、どんなメリットがあるのかを考えた方がいいと思いました。だから私は、この方法を使って、朝起きるのが苦手だから、朝起きたらあまった時間にゆっくりできると考えて、早起きを頑張ってみようと思いました。

最初は、少しくそをついたり、ろうかを走ったりしても、別になんとかなるだろうと思っていたけど、「心のブレーキ」を学んで、もしものことを想像するととてもあぶないことに気がきました。

してはいけない事をしそうになった時、やった後のことを考えると良いと考えました。心の弱さに負けずに、他の人がやっていたら「やめよう」と声をかけたいです。

わたしは、自分の心を信じた時に心の弱さに打ち勝っていると思います。例えば学校の帰り道に「寄り道をしない？」と言われた時です。行きたいと思う時もあるけど、がんばって「いかない」を選ぶとき勝ったと思います。負けているときはどうしてもイライラしたりダメな方に向かおうとしてしまうから気を付けようと思いました。

心の弱さに負けないために先生や大人に言われたことはちゃんと聞いて、ダメなことはダメと思ってたくてもガマンすることが大切だと思った。

私も、してはいけないことをしてしまった時に「こんな事言わなきゃ良かった」と嫌な気持ちになるけれど、一番嫌な気持ちになるのは相手なんだということがわかりました。

私は、バレなければいいじゃなくて、正直に言うことや友達につられないようにしたらいいと思いました。わけは「ぼく」のように危ない状況になったら迷惑になるからです。

心の弱さに負けないために一回本当に大丈夫か考えたいです。また、ダメなことをしている人を見かけたら止めたりしようと改めて思いました。

最初は、バレなければいいと思っていたけど、最後はないしょでやってしまうと命に関わるかもしれないと思ったので、これからはちゃんと考えてから行動したいと思います。

これからは、自分がやってはいけないこととやって良いことを見分けながら、自分が正しいと思うことをしたいと思いました。

心の弱さに打ち勝つには、行動を見つめ直すといいと思いました。なぜなら、考え直すといけないことが分かるからです。やろうと思った時には悪いなんて思っていないけど、もう一度考え直すと、悪いことが分かるからです。ぼくは、一つ一つの行動を見つめ直そうと思いました。